

平成二十四年

大文字まつり — 御案内 —

とき

献灯 五月 二十六日(土)
二十七日(日)

午後七時〜十二時

ところ

可部町・高松山 (太田川橋の北北東 真正面の山(三三九米))

余きよう

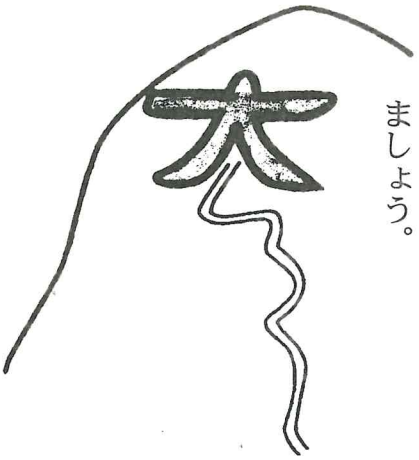
二十六日 午前〓福引き・山頂福引き
午後〓餅まき・福引き

高松山の大文字は、全国でも珍らしい行事で、高松山の雄姿を背にして、うす暗い初夏の夜空にクッキリと浮かび出る大文字の景観は、多くの観光客と共に、じつと見つめると人々を神秘の里に誘うものがあり、地区の人々にながく親しまれております。

その由来、起源など、確実な資料はなく、いつ頃からどの様な由緒で、しかもなぜ『大の字』を表わすのかなど、歴史的にも残存したものがなく、伝説的な一説によれば、可部全町に大の字形に焼け拵がった大火があり、これは神の怒りに触れたものだとし、献灯をし続け、三百年余の永きにわたって引き継がれていとも伝えられ、保存されていきます。

神社の祭神は、ヒノカグツチノカミ火之迦具土神で「この神に祈るに、火を避けることを以つてすれば必驗あり」即ち火除けの守護神で、従つて、火の神様への信仰献灯であります。

山頂の「高松城跡」は、毛利輝元に従つて、広島城に移るまでの熊谷直時の居城で、県の史跡に指定されており、高松神社に参拝し、城跡を探访して、眼下に伸びゆく可部盆地を真下に、太田川の清流と、ひらけゆく団地群など展望すれば、最適のハイキングと言えましょう。



登山口 高松山登山口たもとに案内板あり
道のり 片道ゆつくり五十分で約1km

主催 大文字保存会・広島祭委員会
中国新聞社
協賛 広島安佐商工会・可部郷土史研究会